

提出日：令和 06 年 03 月 08 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 平 健介 職位：教授

役 職：学長補佐（学生支援担当）

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

寄生虫感染あるいは寄生虫病は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において発生頻度が高く重要性が高いことから、獣医寄生虫学関連科目の教育活動は重要である。特に獣医学科の学生は、発生頻度の高い寄生虫病の診断・治療・予防に関する知識・技術の詳細を卒業までに身につける必要がある。獣医学科学生がこれらを要領良く修得するための教育を行うことが、獣医寄生虫学教育者の責任である。

科目名	学科・専攻	必選自	配当年次	受講者数
獣医寄生虫学Ⅰ	獣医学科	必修	2	150
獣医寄生虫学Ⅱ	獣医学科	必修	3	150
獣医寄生虫学実習	獣医学科	必修	3	150
獣医学概論	獣医学科	必修	1	150
総合獣医学	獣医学科	必修	6	150

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

寄生虫病の診断・治療・予防に関する知識・技術の詳細を身につけた学生が、卒業後、産業動物獣医臨床あるいは伴侶動物獣医臨床等において、それらの知識・技術を用いて活躍することは、畜産業の発展、食の安全・安心および人の心の安定等への貢献を意味する。これらの社会貢献の意義は高い。なお、教科書等に記載された知識や診断技術について完成されたものは無く、また、それらの重要性は時間とともに変化する場合が多い。従って、学生には新しい知識・技術および新しく起こり得る問題に対応できる知識や技術を教授することが必要である。そのためには、獣医寄生虫学教育者が、獣医療現場における寄生虫病の発生状況等および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報を常に把握していなければならない。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

獣医療現場における寄生虫病の発生状況等および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報を常に把握しておくように心掛けている。具体的には、前者については、国内各所から検体を集めて自身で検査をして寄生虫を観察している。また、臨床獣医師とのネットワーク拡充に常に努め、現場情報の収集を心がけている。後者については、学術論文講読や国際学会参加などにより新しい知識を得ている。

アクティブラーニングについての取組

寄生虫の形態および動態を知ることが、寄生虫病の診断には重要である。生身（なまみ）の動く寄生虫を獣医療現場から確保し、実習用教材には出来るだけ生身（なまみ）の動く寄生虫教材を用い、自分の目でそれらを学生が検出・観察するようにしている。なお、生身の検体を用いる場合は、バイオリスクについては十分に考慮し、安全に実施している。

ICTの教育への活用

寄生虫の形態および動態を知ることが、寄生虫病の診断には重要である。講義などの教材には、静止画だけでなく出来るだけ動画を用いるようにしている。また、講義を担当した場合は、同講義を録画している。これらの講義動画は、オンデマンドで配信している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） A

学生が学習したことを自分で説明する時間を講義あるいは実習の時間の中に設けている。

②学生の理解度の把握（A～C） A

講義では毎回小テストを行っている

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

講義で毎回行う小テストで良い成績をとるためには、自習が必要であることを事前に通知している。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） A

実習では、積極的に教員へ話しかけるように促している。

⑤双方向授業への工夫（A～C） A

質問や意見があればメールなどで受け付けるようにしている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

過去の問題を確認し、重要性および出題傾向の高い項目を把握し、それらについての説明時間を比較的長く講義に取り入れている。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生からの要望について、可能な限り、対応した。

② ①の結果はどうでしたか。

概して改善できたと思われるが、次年に同様の要望を受けることもあった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

学生からの要望は、可能な限り反映させたいと、常に考えている。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

楽しく学んでもらうことが重要である。獣医療現場における寄生虫病の実態をなるべく実感してもらうような教育を心掛けている。生身（なまみ）の寄生虫検体を獣医療現場から確保し、実習用教材等にはそれらの寄生虫教材を用い、自分の目でそれらを学生が見つけ出し、観察するようにしている。動く寄生虫を自分で見つけた時の学生の目は輝いている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

特になし。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

各種 FD 研究会に参加した。得られた情報の中で取り組むべきと考えられた事柄については、授業や実習に取り入れるようにしている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

寄生虫病あるいは寄生虫感染は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において発生頻度が高く重要性が高い。従って、国家試験出題数も寄生虫学関連問題は比較的多い。目標として、国家試験における寄生虫学関連問題の正答率 70%程度を目標として教育研究活動に励みたい。